



日本地球化学会ニュース

No. 208 March 2012

Contents

年会のお知らせ.....	2
2012年度日本地球化学会年会のお知らせ(1)	
学会からのお知らせ.....	2
新会長あいさつ	

年会のお知らせ

2012年度日本地球化学会年会のお知らせ(1)

主催：日本地球化学会

会期：平成24年9月11日(火)～13日(木)

会場：九州大学箱崎キャンパス文系地区

福岡市営地下鉄 箱崎九大前より徒歩5分
アクセスについては、下記のサイトを参照下さい。

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>
(福岡空港、博多駅からの経路)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/hakozaki/hakozaki.html> (キャンパス内地図)

内容：口頭発表及びホスター発表（昨年と同様に、全ての発表を30程度のセッションの中で行います）、学会賞記念講演、総会、懇親会など。セッション編成については次号のニュースでお知らせいたします。

締切：講演申込及び要旨提出（昨年と同様に、同時に行ってください）：7月17日(火)予定。

事前参加登録：8月24日(金)（割引料金適用）予定。各種申込は年会ウェブサイトから行います。その詳細については次号のニュースあるいは学会のホームページをご覧ください。なおウェブサイトからの申込が困難な方は年会事務局にそれぞれ締切の1週間前までにご連絡下さい。年会ウェブサイトは4月上旬に開設します。

関連イベント：市民講演会、ショートコース（詳細は次号のニュースでお知らせします）

小集会：学会期間中の昼食時間、あるいは講演終了後に小集会を行うことができます。希望のあるグループは年会事務局に問い合わせてください。

年会事務局：

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学大学院理学研究院内

2012年度日本地球化学会年会事務局

E-mail：2012@geochem.jp

学会からのお知らせ

●新会長あいさつ

日本地球化学会 会長 吉田尚弘

本会へ入会を考えている皆様、日本地球化学会へようこそ。本会会員の皆様、日ごろのご貢献と活発な活動に敬意を表します。本会は国内に2000弱ある学協会の中で規模として決して小さいとは言えず、質とともに、重要な学会の一つであることを再認識したいと思います。これは地球化学が魅力的な学問分野であることに加えて、設立以来60年になろうとする現在まで、先輩会員諸氏が営々と築き上げてきた科学と諸活動の上に成り立っています。国内では少子高齢化が進み、会員数が大幅に減少する学会が多い中で、約1000人という会員数に大きな変化がないこともその一つの証と言えます。

地球化学の対象とする時空間軸は非常に幅広いものです。それは地球化学の基礎となる物質循環が宇宙・地球・環境・生命を貫いているためであることと、宇宙創成から現在、将来の地球環境変化に及ぶためでしょう。元素、同位体、物質の存在度、起源、ソース・シンクのプロセス、フラックスなどを物質循環の視点で知ろうという地球化学の分野の研究者の意欲は、その創始期から非常に高いもので、一面では自然科学をリードして来たと言えます。理論化学、計測科学、模擬実験をベースにして、観測（現場、遠隔）、ラボでの試料分析、そしてモデリングが一体となって体系として構築されます。それら個々の方法論の技術的な発展とともに、総合科学として進化し続けています。その学問分野の特徴は「包容力」と「ダイナミズム」にあると考えます。

現状に安穩とすることなく、地球化学の分野の正常な発展のために、もっとも大事なことは、会員各位の科学と活動の発展で、その集積として、総体たる本会の発展があります。多くの会員が感じられている通り、研究環境は厳しくなる方向にありますが、会としてできることを会員の総意として進めていきたいと考えます。本会の最大の特徴である秋の年会の盛況を堅持する一方で、地惑連合大会などにおける本会の存在感と重要性の適切な表現をしていきたいと思えます。

国内の学協会が運営する学術誌の出版は、本会の *Geochemical Journal*、地球化学も含めて、かなり近い将来、大きな転換期を迎えることが予想されます。

改革した新しい編集体制を整え、様々な要素を考慮して、運営を活発化させていくとともに、もっとも大切な、雑誌としての方向性、コンテンツの広がりとレベルの高まりのための具体策を進めたいと思います。国内の学協会との連携や国外の学協会との密接な関係の発展と、Goldschmidt Conference 国際会議などの国際協調を発展させたいと考えます。

2011年、我が国は東日本大震災という大変な災害がありました。その後も、本会の重要性が高まることはあっても、下がることはありません。地殻変動、環境、資源、自然エネルギーなど、本会がカバーする学問分野の重要性がますます高くなっています。非常時にも、一機関でなく、学会が果たす役割が重要であったことがはっきりしてきました。このような地球化学会の「包容力とダイナミズム」を正常熟成していくことに微力ながら力を注ぎたいと存じます。会員の皆様のご意見を伺い、ご賛同を得て進めていきたいと存じますので、是非ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

● 「Geochemical Journal」の編集委員長の交代 編集委員長 塚本尚義

本年1月より Geochemical Journal (GJ) 編集委員長を仰せつかりました。2ヶ月経過しましたが、前年通りの投稿件数で論文を受け付けています。これは佐野有司前編集委員長のご尽力の賜物と感謝しており、心から4年間の編集長業務に敬意を表します。ありがとうございました。

今期より、GJの発信能力を高めるため、副編集長体制を強化し、5名にお願いしました。副編集長には編集活動全般について編集長をサポートしていただくのですが各副編集長の主な守備範囲は、鍵裕之(固体地球)、角皆潤(大気水圏)、大河内直彦(有機地球)、Timothy Fagan(英文)、Madhusoodhan Satish-Kumar(英文)です。また、アソシエイト編集者につきましては、GJの継続性を考慮してほとんどその

ままの体制でお願いすることができ、今期を開始しました。これからの投稿状況をみてこの編集体制をだんだんと修正していきたいと思っております。また、この新体制をどれだけ機能的に働かせることができるかは私のこれからの手腕です。皆様の叱咤激励をお願いします。

もう一つの今期の変更は、表紙が新しくなったことです。<http://www.terrapub.co.jp/journals/GJ/index.html> をご覧ください。昨年の札幌年会の投票におきまして第1位になった作品です。コンピューターグラフィックスを駆使した現代的なデザインについては賛否あると思いますが、これまでのシンプルなデザインコンセプトを継承しております。つまり、GJは1966年の創刊以来変わらず地球内部から宇宙まで、無機から生命まで、地球化学すべての分野にわたるオリジナル論文を掲載する雑誌ということを表しています。また、地球化学に関する新手法の開発についても積極的に掲載していきたいと考えますのでよろしく願いします。

会員の方、特に、35歳以下の方をお願いしたいことがあります。GJ創刊当時と異なり現在では、研究の完成成果報告というより進捗成果報告という内容の論文の割合が多くなっていると思います。この善し悪しを議論することは年配の皆さんがお好きですが、それはそれとしてこの時代の波にのみこまれない、あるいは、積極的に波を乗り切る対応をしていただくことを希望します。つまり、皆様の研究の各進捗段階が終了次第、簡潔に一報の論文としてまとめていただきたいと思えます。各進捗段階が終了というのは、具体的には大体、学会発表申込に相当すると思えます。学会発表終了と同時に論文投稿をお願いします。そしてできましたら、GJも投稿雑誌の候補に加えてください。

最後に私が一年後にイメージしている事を書きます。それは、GJのページ数が増加して、前年度ベースで算定された学会予算をオーバーすることです。毎年の予算増を学会執行部から勝ち取れるよう、皆様からの投稿をお待ちしております。

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2012年7月頃を予定しています。ニュース原稿は5月下旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

川幡穂高

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所
海洋底科学部門

Tel : 04-7136-6140

E-mail: news-hp@geochem.jp

原田尚美

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域

Tel : 046-867-9504 / Fax : 046-867-9455

E-mail: news-hp@geochem.jp